

9月13日(日) ワークショップ第4室(T208)

動詞の類義語の研究 ー 日英語の比較の観点から ー

A Study of Synonymous Verbs in English

ー With Special Reference to Corresponding Japanese Synonymous Verbs ー

＜語法研究会企画＞

司会 森戸 由久(創価女子短期大学)

提案者 ウォレン・エリオット(千葉商科大学)・小谷 悠紀子(東京電機大学)

高木 道信(千葉商科大学)・喜田 慶文(東洋大学短期大学)

山崎 聡(千葉商科大学) <発表者順>

この研究の共同推進者は、久泉 鶴雄(神田外語大学)・楠瀬 淳三(上智大学)・

中野 美知子(早稲田大学)・田島 穆(常磐大学)・矢田 裕士(東京家政大学)である。

この研究会の当面の研究目標は英語の動詞の類義語を、意味上それらに対応する日本語の類義語と対比しながら、研究することである。具体的には、同じ意味を部分的に共有し、類義語として一つのグループをなす動詞の間に見られる意味上、用法上の相違を明らかにすることである。

これらの相違点を明らかにするには、各語の意味特徴、統語上の特徴、用法などの観点からのアプローチが必要であると考えられるので、この研究では、これらの観点をいくつかの具体的な範疇に分類し、それぞれの範疇での各語の意味の輪郭、統語上および語法上の傾向的特徴を捉え、最終的には各語の特徴を総合的に捉えようとするものである。

観点の具体的な範疇は、おおよそ次の通りである：

- 1) 主語として取りうる名詞の種類に選択制限の違いはないか。
- 2) 他動詞の場合、目的語の名詞の種類、たとえば、有生名詞と無生名詞の選択制限があるかどうか。そして、それぞれの動詞と名詞のコロケーションの可能性を表に示す。
- 3) それぞれの動詞が強調する意味要素は何か。たとえば、surprise, amaze, astonish, astound などの動詞はそれぞれどのような驚きを表すのか、それぞれの驚きの程度の違いとともに明らかにする。
- 4) それぞれの動詞が表す動作の様態にはどんな違いがあるか、修飾する副詞の違いを通して、その違いをみる。
- 5) 表現のことを考えると、統語上の違いが問題になるので、この点もできるだけ明確にしたい。たとえば、seemとappearの場合。
- 6) 範疇とは異なるが、しばしばインフォーマント・チェックの結果に見られる不確実さをさらにチェックするために corpus によって検証する。

なお、これらの範疇のマトリックスに表れる語と語の間の相違点のいずれか一つだけで意味、用法上の相違が明確になることは稀であると考えられるので、上に述べたように、マトリックスに表れた諸特徴を総合して、各語の意味・用法上の特徴を明らかにするのが最終のねらいである。

今回の発表は上記の範疇に照らしてのアプローチにより類義語間の意味用法上の相違を明らかにしようとする具体的な試みである。(田島)

Common Errors in the Use of Verbs by Japanese Students of English

Even among native speakers there is sometimes disagreement about which verb in a set of synonymous verbs is the correct one to use. Therefore it must be very difficult for students learning English as a foreign language to judge which verbs to use. This presentation will focus on common errors and misuse by Japanese college students. As one example, the difference between remember and memorize is often misunderstood. Often when I give an assignment, a student will ask me if they must remember it. I tell them to not only remember it, but to also memorize it. Remember means to just have some knowledge of it in your brain. Memorize means to learn all of it completely by heart. A number of other common errors will be dealt with in this presentation. (Elliott)

動詞と名詞の結び付きを中心に

中核的意味「守る」の英語動詞類義語として protect, defend, guard, safeguard, shield, shelter の6語を抽出し多様な語用法を収集する。特に動詞と名詞とのコロケーションの可能性を探ることによって、この6語について共通点と相違点を明らかにすることを試みる。また、「他から害を受けない守りの方法」の相違からくる語の使い分け(例: guard, shield, shelter)や「守りの方向」の違いから類義語の区別を示す。(小谷)

Degree の相違に関する事例

中核語・一般的な語 (general word) としての SURPRISE を取り上げ、この語を取り巻く astonish, amaze, astound, startle 等の類義語の固有素性・文脈素性を比較し、「驚く」程度の差に応じた動詞の特定を試みる。各類義語間の degree の差は、辞書・類義語に関する書により若干の差異があるが、この差を<中核語+副詞(句)><他の類義語への置き換え><動詞以外の品詞への転用>等で表してみたい。(高木)

Seem, appear, like, sound の統語上の違い

この群の動詞に共通する中心的な概念は「～のようだ」であり、いずれも話者の事物に関する意見、または他人の意見に対する論評を述べるような場合に使用される。意味上、また統語上でも seem はこの群の動詞の中心的な語と考えられ、この群の他の語は seem の一部、あるいはすべてを含むことによりグループ化されている。ここでは seem を中心に主に統語上の差異に注目し、用法上の違いを考えてみたい。(喜田)

コーパスによる類義語の語法の検証

さまざまな類義語辞典に説明されている類義語の使い分けに関する説明は、英語を母語とするインフォーマントの直観とは異なることがしばしば見受けられるようである。本発表では、このような組の類義語について、使い分けに関する説明の妥当性をコービルド・ダイレクトコーパスを用いて検証してみたい。使い分けは、レジスターが異なれば自ずと違いが見られるはずであるので、この点も考慮しながら観察を試みる。(山崎)